熊本県玉名市



市制施行30周年記念

1984

■題字／玉名市長　松本虎之助



■表紙／高瀬眼鏡橋

県指定文化財
　菊池川の支流裏川に架けられ、全長19メートル、幅4.1メートル、アーチの径6.7メートルの規模をもつ凝灰岩の二重橋で、嘉永元年九月（1848）奉行高瀬寿平らによって架けられたものである。
　中央橋脚の下端に川上に向かう脚幅の水切りの備えがあり、二つのアーチと中ふくらみ反りかえる路線の曲線的な美観と、学理に基づく石造技術は実に見事である。
　現在もなお菊池川河川敷駐車場から商店街への通路として利用されている。

目　次

発刊のことば……1
沿　革……4
地勢と位置……5
市章・市歌……6
市の木・市の花・市民憲章……7
市政のあゆみ……8
名誉市民……11
行政機構……12
議　会……13
市民参加の市政……14
活力に満ちた産業……16
快適な生活環境……22
心のふれあう豊かな福祉……28
健康で明るい都市……32
安心して暮らせる市民生活の守り……36
21世紀を託す＝明日を担う教育……38
豊かな文化と伝統……42
史跡といで湯の里……46
まつりと行事……48



発刊のことば

昭和29年４月１日市制施行以来玉名市は有明広域圏の中心都市として、着実な躍進を続けてまいりましたが、本年４月輝かしい記念すべき市制施行30周年を迎えました。市民のみなさまと共にご同慶に存じます。尊敬する幾多の人々や諸先輩の方々のご労苦とふるさとの多大な恩恵に報いるために私は「誇りを持ち愛せずにはいられないふるさと」そして「21世紀を目ざす活力と潤いのある新生玉名市」を創造するため、こん身の力をふりしぼって、市民のみなさまの負託に応えたいと存じます。

限りない未来を秘めたふるさと玉名市は、今後ともなお50周年、100周年に向かって伸展するにちがいありません。かけがえのない子孫のために素晴らしい玉名市を実現するために、市民のみなさまのご理解とご協力をお願いいたしますとともに今後の市勢発展に心をお寄せいただければ幸いに存じます。

昭和59年10月

玉名市長　松本虎之助

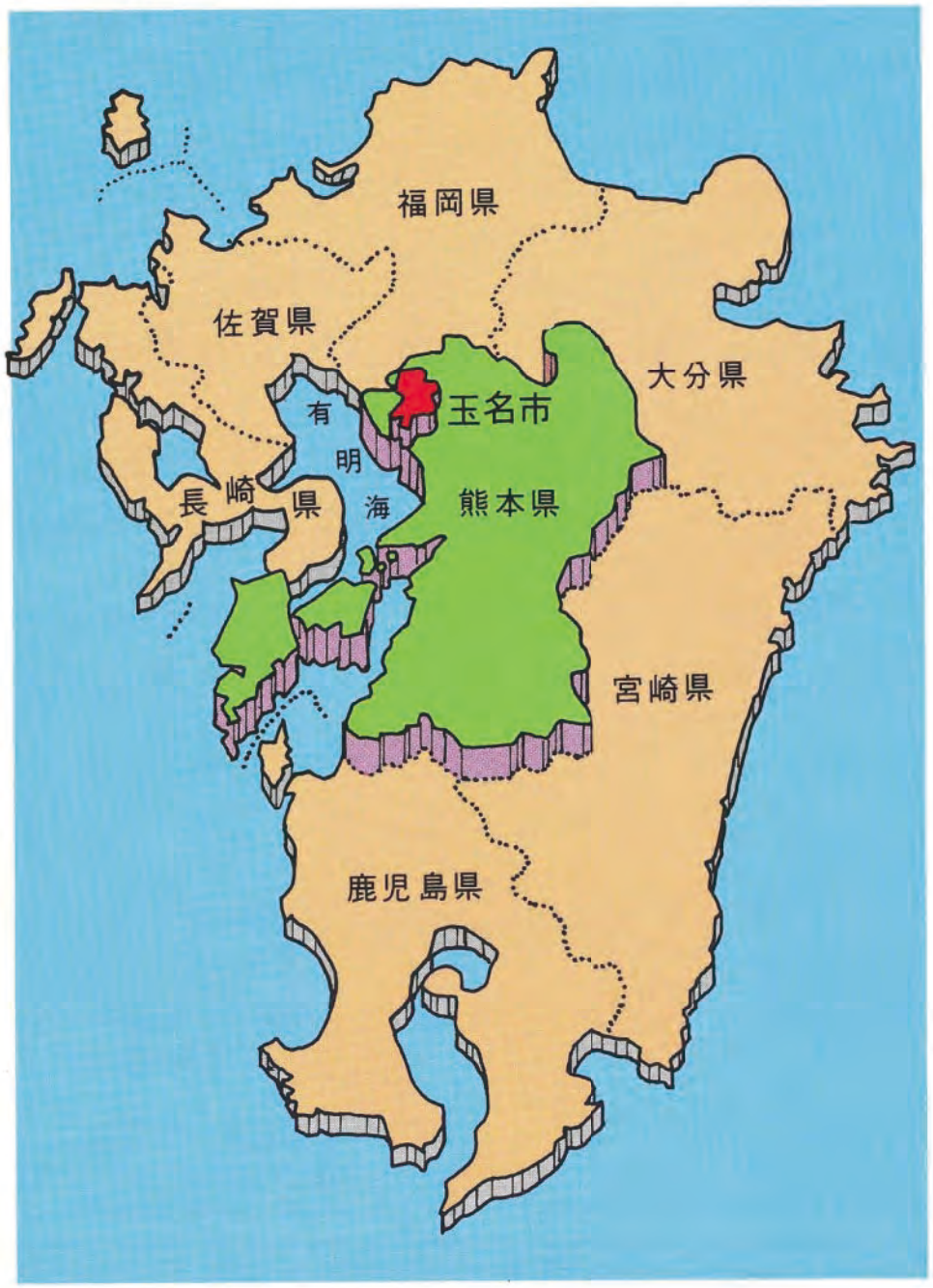
誇りと愛せずにはいられない活力と



潤いのある都市づくり



沿革



玉名市の歴史は古く縄文時代から天恵の地として知られ、弥生時代になるとはやくも大陸と交流をもち、下って古墳時代には、華麗な副葬品と共に、日本最古の漢字が彫まれている銀象眼の太刀で有名な船山古墳をはじめ、舟型石棺（院塚古墳）や装飾古墳（ナギノ横穴群）を多数のこし、考古学上貴重な遺跡が豊富である。その後、当地方を玉杵名と呼び疋野長者の日置氏、菊池氏、大野氏の荘園として産業が興り社寺等を造営し、この地方の中心としての基礎づくりができた。当時、高瀬、伊倉の港は一時倭寇の根拠地ともなり、中国大陸や南方向けの貿易港として栄え切支丹もひろがった。

戦国時代は、諸大名争奪の地となり焼土と化したが、加藤清正公入国して治水と干拓に力をいれ、広大な新田をえて当地方は穀倉地帯として人口も増加した。細川54万石の統治下になると肥後の要衝の地として５カ町の一つに数えられ、文化、経済、商業の中心地として殷賑を極めた。明治10年の西南の役には戦場の最北端として官軍の本営がおかれ、熾仁親王もとどまられ附近に多くの有名な戦跡が残っている。

明治以後は経済面の開拓が著しく、干拓による米の生産、養蚕業の振興、鉄道の開通とともにしだいに発展してきた。

昭和17年高瀬町と弥富村が合併して玉名町となり、昭和29年４月、玉名町、伊倉町、大浜町、築山村、滑石村、豊水村、八嘉村、梅林村、小田村、玉名村、月瀬村、石貫村の12カ町村の合併により市制が施行され、昭和31年南関町の一部三ッ川地区が玉名市に編入された。昭和35年に国道208号が市中心部を貫通、商店街の近代化に拍車をかけるとともに近代都市としての形態を整えた。

昭和45年、２市８町を包含した有明広域市町村圏の指定をうけ、関連道路の整備、消防組合の設立、コンピューターの導入などの広域行政の推進とともに昭和55年には国土庁の水緑都市モデル地区として全国初の指定を受け、裏川・俵ころがし等を整備、玉名市他４カ町病院組合による公立玉名中央病院、玉名市公民館・市民図書館を併設した文化センターを建設、県北部における政治経済、教育文化、観光の中心都市となっている。

地勢と位置

本市は熊本県の北部に位置し、面積は90.30㎢である。

熊本市と大牟田市の中間にあり、菊池川の右岸に市街地を形成している。南は有明海に面し、市域は東西10.8km、南北16.0kmに及ぶ。

市北部の県立公園小岱山の丘陵地帯と南部の海岸線の間に肥沃な穀倉地帯の玉名平野がひろがり、物資供給の要衝の地である。

市街地の北部、小岱山の麓には1200余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉があり、県北部の枢要の地である。

位置

極東	極西	極南	極北
東経	東経	北緯	北緯
130°37′47″	130°30′54″	32°50′51″	32°59′30″
梅林	滑石	大浜	三ツ川
奥野地区	共和地区	大栄地区	川床地区

◎市役所　東経130° 33′ 42″
　　北緯 32° 55′ 30″

面積　90.30平方キロメートル
東西　10.8キロメートル
南北　16.0キロメートル



市章・市歌

市章

玉名の片カナ頭文字タを円型に図案化したもので、中央剣尖は向上発展を意味づけたものです。

玉名市歌

辰巳利郎 作詞
梅沢信一 作曲

一、小岱の　山むらさきに
広々と　沃野のみどり
天地の　めぐみあつめて
光りみつ　若き我が市よ
燦爛と　歴史かがやく
ああ玉名玉名　讃えよその名

二、ゆたかなる　菊池のながれ
潮騒の　歌呼ぶほとり
野に山に　幸はあふれて
溌剌と　興る我が市よ
産業の　力脈打つ
ああ玉名玉名　謳えよその名

三、ふるさとは　花もかおりて
観光の　夢呼ぶところ
ほのぼのと　湯の香ただよい
文化また　みのる我が市よ
躍進の　意気に燃えたつ
ああ玉名玉名　誇れよその名

市の木

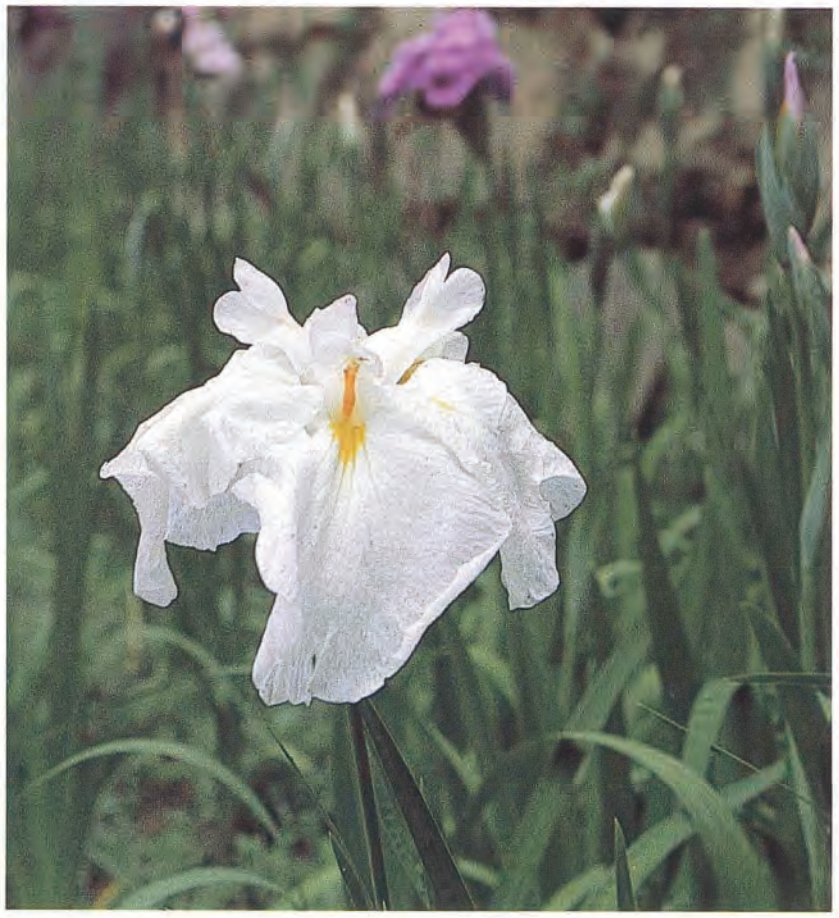


小　岱　松

クロマツ科。小岱山に自生し、特長は葉先が萌黄色で細く鋭く、樹木のハダは龍鱗千枚皮といわれ表皮が亀甲型に割れ、はげずに厚く重なりあっている。

松は常緑で樹令が長く、古くから庭園木、盆栽として愛用され、その姿は生気に満ちており市勢発展を象徴している。

市の花



肥後しょうぶ

アヤメ科。肥後６花の１つ。古くから厳しい規約のもとで栽培され、守り育てられてきた。

花は雄大豊艶で、花弁も厚く見事な花芯が立ち、格調高く、葉幅も茎も太く大輪の花が葉上にぬきんでて咲くのが特長の一つである。わが国の梅雨をいろどる季節の花として、艶麗で気品がただよう。

昭和54年「市の木」「市の花」選定

玉名市民憲章

1．わたくしたち　玉名市民は
　澄んだ空気ときれいな水と
　緑あふれる　恵まれた郷土
　玉名市の自然を大切にします。

1．わたくしたち　玉名市民は
　古い歴史をたたえ　若い力を育て
　文化のかおる郷土
　玉名市をつくります。

1．わたくしたち　玉名市民は
　仕事によろこびをもち　生産を高め
　豊かな郷土　玉名市をつくります。

1．わたくしたち　玉名市民は
　きまりを守り　あたたかい心で
　人に接し　住みよい郷土
　玉名市をつくります。

1．わたくしたち　玉名市民は
　教育を重んじ　教養を高め
　視野を広くし　伸びゆく郷土
　玉名市をつくります。

（昭和49年制定）

市政のあゆみ



昭和31年　老人ホーム静光園開園



昭和35年　国体レスリング会場(玉名中)に両陛下御来臨



昭和36年　繁根木川で堤防決壊



昭和43年　ホームヘルパー設置

西　暦	年　号	おもなできごと
840	承和　7	疋野神社建立（阿蘇神社と並ぶ式内社）
1589	天正17	加藤清正、第1期菊池川干拓工事着手
1592	20	加藤清正、軍1万を率い高瀬港より朝鮮遠征（壱岐）へ出帆
1605	慶長10	菊池川干拓工事完成
1874	明治　7	大浜海岸で海苔の海面試験養殖始まる
1877	10	西南の役、戦場最北端の官軍本営がおかれ熾仁親王とどまる
1878	11	玉名郡役所（郡長）設置（7町165村生まれる）
1889	22	市町村制の実施　玉名郡42町村　人口123,742人
〃	〃	郡役所高瀬におかれる
1891	24	鹿児島本線開通、高瀬駅（昭和31年玉名駅に改称）できる
1903	36	熊本県立熊本中学校玉名分校開校（明治39年県立玉名中学校となる）
1911	44	電話一般通話開始
1912	45	金栗四三氏　第5回オリンピック、ストックホルム大会に参加
〃	〃	熊本県玉名郡立実科高等女学校開校（大正12年県立高瀬高等女学校となる）
1922	大正11	高瀬大橋完成（当時県下最長の鉄筋コンクリート橋　長さ320m、巾5.6m）
1925	14	火力発電所運転開始（昭和30年閉鎖）
〃	〃	新穂登免氏、弥富村に私立玉名実践女学院設立（現玉名女子高等学校）
1935	昭和10	肥後伊倉駅できる
1942	17	高瀬町と弥富村が合併し玉名町となる（2,053世帯、10,251人）
1948	23	玉名中学校と高瀬高等女学校が合併し、県立玉名高等学校となる（旧制玉中を第1部、旧制高瀬高女を第2部、旧町村組合立玉名農業学校を第3部とする別学制総合高等学校）
1952	27	玉名高等学校第3部独立し、県立玉名農業高等学校となる
1954	29	玉名市制施行（玉名町、伊倉町、大浜町、築山村、滑石村、豊水村、八嘉村、梅林村、小田村、玉名村、月瀬村、石貫村の12カ町村が合併、8,955世帯、46,569人、初代市長　橋本二郎氏）
〃	〃	玉名市外4カ町村組合立済春病院完成（昭和56年公立玉名中央病院となる）
〃	〃	「玉名市政だより」創刊
〃	〃	玉名市消防本部設置（昭和47年有明消防組合へ）



昭和45年　交通指導隊発足



昭和49年　老人ホーム静光園移転、福祉センター完成

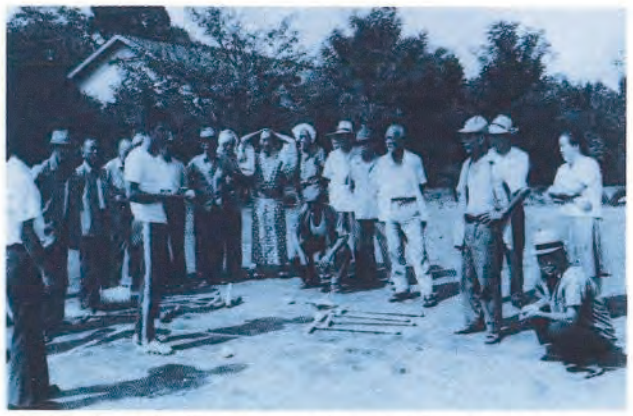
西　暦	年　号	お　も　な　で　き　ご　と
1955	昭和30	玉名市歌決まる　塵芥焼却場完成（昭和52年休止）
1956	31	南関町三ツ川地区玉名市に編入（1,363人）49,264人
〃	〃	市立養老院静光園開設（現老人ホーム静光園　昭和49年移転）
〃	〃	第1回市民体育祭開催　玉名市奨学資金制度制定
1957	32	第12回県民体育祭開催
1958	33	玉陵中学校開校（錦水中学校と小田中学校合併）
〃	〃	小田小学校開校　玉名橋架替工事完成
1959	34	市庁舎完成　上水道工事完成
〃	〃	西部マラソン30キロ大会玉名市で開かれる（これより玉名市に定着、昭和56年より金栗杯玉名30キロロードレース大会に改称）
〃	〃	国道208号開通（町部）
1960	35	蛇ケ谷児童遊園地完成　高瀬大橋架替工事完成
〃	〃	第15回国体（玉高で軟式庭球、玉中でレスリング行われる）
〃	〃	玉名駅改築
1961	36	玉名平野土地改良区設立　改良事業に着手
1962	37	玉名市農業協同組合発足（11農協合併）
〃	〃	名誉市民条例制定　金栗四三氏、新穂登免氏推さる
1963	38	県立玉名工業高等学校開校　新産業都市指定　市消防署発足
1964	39	し尿処理場完成　市営温泉保養センター完成（昭和51年閉館）　白石堰完成
1965	40	農協会館完成　商工会館完成
〃	〃	市営大衆浴場完成　鹿児島本線電化
1967	42	玉名市民会館完成　菊池川一級河川指定
〃	〃	国道208号（高瀬大橋－田崎間）全面舗装開通
1968	43	鹿児島本線複線開通（熊本－荒尾間）　ホームヘルパー設置
1970	45	有明広域市町村圏指定
〃	〃	玉名市交通指導隊発足　玉名市交通公園開設
〃	〃	第1次農業構造改善事業完了
1971	46	統合玉名中学校発足（玉名町、築山、滑石）昭和48年校舎完成
1972	47	有明消防組合発足



昭和55年　春出ループ架橋完成


昭和53年　新大浜橋完成


昭和53年　市政モニター制度発足


昭和50年　お年寄りにゲートボールが盛んになる



昭和52年　小岱山林道開設



昭和53年　小岱山自然歩道開通

市政のあゆみ

西　暦	年　号	お　も　な　で　き　ご　と
1973	昭和48	蛇ケ谷公園運動広場完成
〃	〃	機構改革により部制を実施（総務部、市民部、開発振興部）
〃	〃	小岱山キャンプ場完成
1974	49	福祉センター、老人福祉センター開設　市民憲章制定
1975	50	第２次農業構造改善事業完了　松木地区区画整理事業着工
〃	〃	小岱山保全林事業完了　熊本県有明大牟田工業用水道完成
〃	〃	総合庁舎完成
1976	51	玉名農村検診センター完成
1977	52	小岱山林道開通　第32回県民体育祭開催
〃	〃	故橋本二郎氏名誉市民に推さる　一本松団地完成
〃	〃	クリーンセンター完成（昭和59年電気集塵機完成）
〃	〃	し尿処理場増設工事完成　糠峯団地入居開始
1978	53	九州自然歩道小岱山コース完成
〃	〃	国営土地改良事業直轄干拓横島地区公有水面埋立工事完成（市分　1,452,874㎡）
〃	〃	有明中学校発足（大豊中、横島中統合）
〃	〃	身体障害者憩いの家開設（昭和45年建老人憩いの家を改組）
〃	〃	新大浜橋利用開始　市政モニター制度発足　声の広報開始
1979	54	玉名市民安全互助会発足
〃	〃	滑石のり網冷蔵施設建設
〃	〃	市の木「小岱松」市の花「肥後しょうぶ」選定
1980	55	国民休養地指定　岱明玉名線高架橋完成
〃	〃	小中学校で米飯給食開始
1981	56	都市計画用途地域決定　玉名消防署新庁舎完成
〃	〃	伊倉隣保館完成　公立玉名中央病院完成
〃	〃	玉名市公共下水道一部供用開始
〃	〃	玉名市文化センター（公民館、市民図書館）完成
1982	57	水際緑化事業裏川、俵ころがし改修工事完成
1983	58	つるの河原運動広場完成　小島架橋着工



昭和58年　つるの河原運動広場完成


昭和58年　小島架橋着工


昭和57年　水際緑化事業改修工事完成（裏川）


昭和56年　伊倉隣保館完成


昭和56年　公立玉名中央病院完成


昭和56年　文化センターオープン

名誉市民

玉名市名誉市民条例は、昭和37年５月に制定され、広く社会文化の向上発展に寄与し市民が郷土の誇りとして尊敬する方に対し、市議会の同意を得て「玉名市名誉市民」の称号が贈られます。



故　新穂登免氏

明治５年熊本市坪井町、内藤仙太氏の二女として生れ、熊本尚絅女学校裁縫科を卒業、その後、熊本高等小学校教諭、引続き25年間教壇生活を送り、子女の裁縫教育に尽し、大正14年白梅学園玉名女子高等学校の前身である、高瀬女学院（玉名家政高等学校）を創設し、昭和32年まで、32年間同学園の理事長と校長を兼ね、その後理事長兼名誉校長として玉名地方の女子教育に大きく貢献し昭和46年１月13日98歳で没。

昭和33年　藍綬褒章受賞
昭和40年　勲四等宝冠章受賞



故　金栗四三氏

明治24年熊本県玉名郡旧春富村の金栗信彦氏の四男として生れ、のち東京高等師範学校を卒業、第５回オリンピック　ストックホルム大会に日本初の選手として出場、つづいて第７回アントワープ、第８回パリ大会と出場、その後は後輩の指導に専念し、日本マラソン界の父と仰がれ、日本陸上競技連盟顧問、日本マラソン連盟会長として、マラソン選手の強化指導に尽し昭和58年11月13日92歳で没。

昭和30年　紫綬褒章　朝日文化章受賞
昭和39年　勲四等旭日小綬章受賞
昭和58年　従五位　銀杯下賜



故　橋本二郎氏

明治37年玉名市滑石の橋本静太氏の二男として生れ、早稲田大学を卒業、昭和８年滑石村会議員となり以後滑石村長、熊本県議会議員を経て昭和21年衆議院議員となる。

昭和29年近隣12町村の合併で誕生した玉名市の初代市長に選ばれ５期19年その職にあり市政の発展に尽力、その間、有明広域市町村圏協議会長、玉名平野土地改良区理事長など多くの公職を兼ね、その進展に貢献し昭和52年３月14日72歳で没。

昭和52年　正五位　勲三等瑞宝章受賞

行政　21世紀をめざす市民のための市政

行政機構

市民生活の多様化に伴い行政需要も複雑多様化しており、これに対処するため、昭和48年6月に部制（総務・市民・開発振興）を施行しました。

近年、経済の安定成長時代を迎え行財政改革による行政機構の整備、事務事業の合理化等による市民生活の安定向上を図っています。

部制の推移

昭和48年6月
総務・市民・開発振興

昭和53年4月
総務・市民・開発・農政

昭和57年1月
総務・市民・建設・農政商工観光



市　長
松本虎之助



助　役
杉原　直之



収入役
潮崎芳雄

- 総務部
  - 秘書企画課 ― 秘書係・企画係・広報統計係
  - 財政課 ― 財政係・管財係・市民会館係
  - 総務課 ― 行政係・職員係・消防係・交通安全対策室
  - 税務課 ― 市民税係・固定資産税係・収納係
  - 会計課 ― 会計係・用度係
- 市民部
  - 市民課 ― 市民係・戸籍係・保険係・年金係／市民相談係
  - 衛生課 ― 予防係・環境公害係・清掃第一係／清掃第二係
  - 同和対策課 ― 同和対策係・隣保館
  - 福祉事務所 ― 庶務係・保護係・社会係・福祉係／福祉センター・老人福祉センター
  - 静光園老人ホーム
- 建設部
  - 監理課 ― 監理係・建築係・住宅係
  - 土木課 ― 庶務係・土木係・道路維持係／失業対策事業係
  - 都市計画課 ― 管理係・都市計画係・公園緑地係
  - 下水道課 ― 管理係・建設係・維持係
  - バイパス対策室 ― バイパス対策係
- 観光農政商工部
  - 農業振興課 ― 農政係・農林水産係・農業共済係
  - 耕地課 ― 管理係・耕地係・地籍調査係
  - 商工観光課 ― 商工係・観光係
- 教育次長
  - 学務課 ― 庶務係・学校教育係・施設係
  - 社会教育課（公民館） ― 社会教育係・社会体育係
  - 市民図書館 ― 庶務係・奉仕係
  - 学校給食管理室 ― 第一学校給食共同調理場／第二学校給食共同調理場
- 教育長
  - 教育委員会
- 水道局 ― 庶務係・工務係・給水係
- 監査委員 ― 監査事務局
- 農業委員会 ― 農業委員会事務局 ― 農政係・農地係
- 選挙管理委員会 ― 選挙管理委員会事務局 ― 選挙係
- 公平委員会



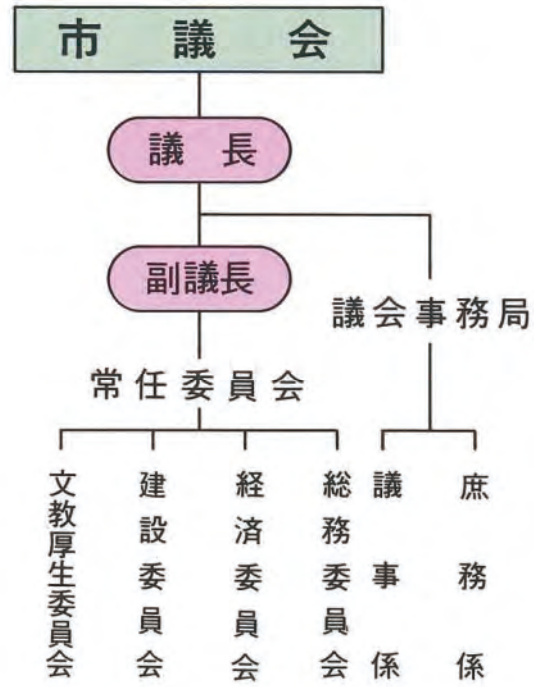
■三役会――助役（左）　市長（中央）　収入役（右）

議会

市議会は、選挙で選ばれた26名の議員で構成される市民の代表機関です。

予算や条例を審議するほか、行政に対する検査や調査、市民からの請願・陳情の受理などを行います。

26名の議員は４つの委員会に所属し、市民生活向上に努められています。





■議　長 大潮　勢一



■副議長 坂本　又喜



■昭和59年６月市議会

市民参加の市政



■あなたの提案を市政に生かしましょう

玉名市では、一般の方々の意見を広く求めるため、昭和53年度から市政モニター制度を設けています。

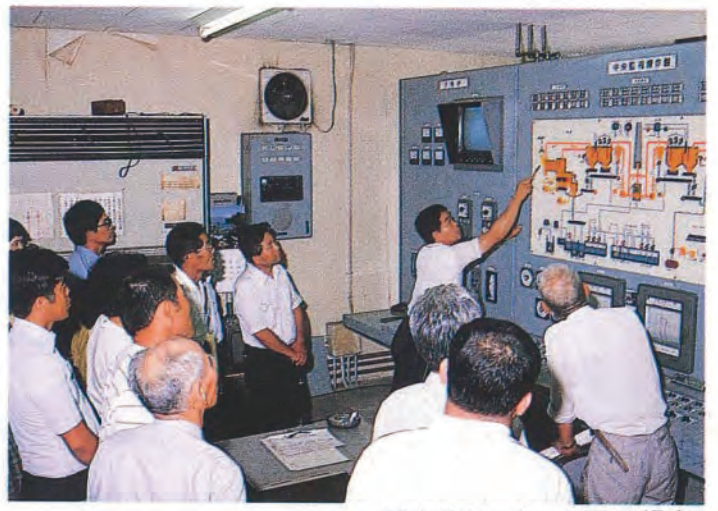
昭和59年度には、昭和75年を目標年次とした基本構想、基本計画を策定するため校区懇談会や各種団体との懇談会を実施しました。又、市長は多くの方々の意見を聞くため、各種会合、行事等に積極的に出席するとともに、市長室でも多くの市民との対話が行われています。



■まちづくりのための懇談会



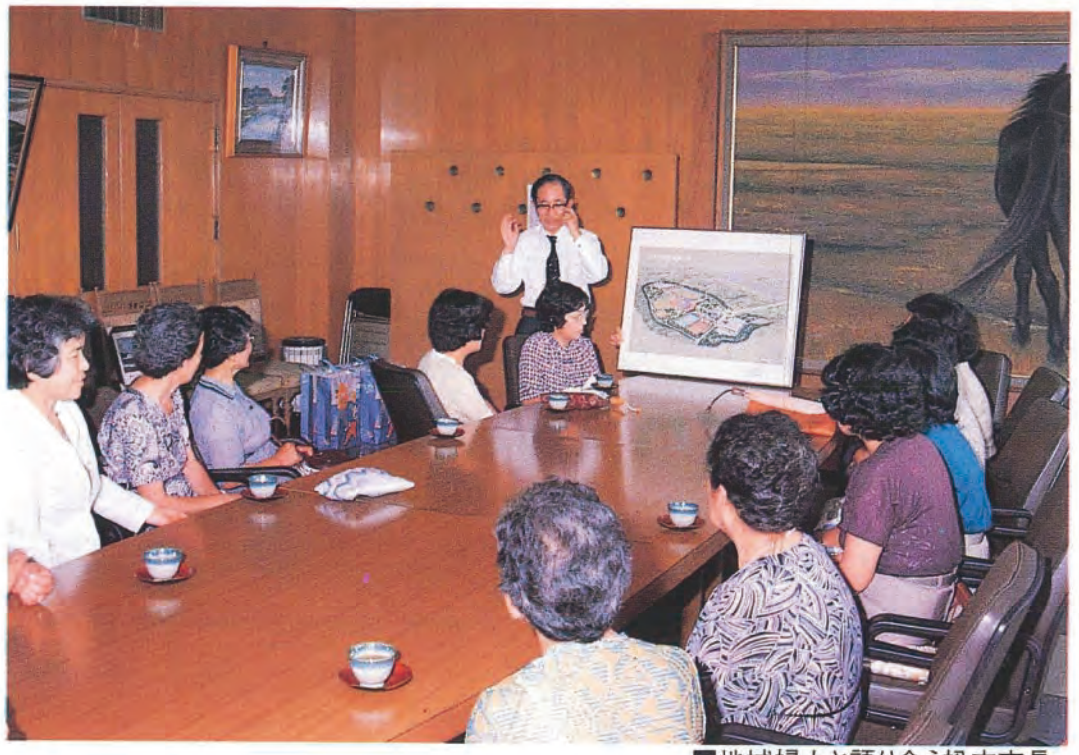
■市政モニター会議



■市政モニターの現地視察



■市民各層代表者との話し合い



■地域婦人と語り合う松本市長

産業　活力に満ちた産業



本市は阿蘇外輪を源とする菊池川の豊かな流れに育まれた肥沃な土地に恵まれ、北に小岱山、南に有明海と接し、有史以来農耕や漁業で安定した生活が営まれてきました。

近世には、農産物の集積地として栄え、国鉄の開通とともに工業も興り、昭和40年代の企業進出と農業基盤の整備、国道開通による商店街の活性化等により、活力に満ちた産業が営まれています。

農業

昭和29年の市制発足より、田園都市として発展して来た玉名市は、高度情報化社会を迎えた今日でも、農業経営の安定が玉名市発展の基であり、このため、土地基盤の整備、農地の有効利用と生産性の向上、生産技術の向上、経営の合理化、経営規模の拡大などを推進しています。



■秋の味覚でいっぱい



■黄金の波うつ玉名平野



■ハウス栽培



■いちごの収穫



■豊富な農業用水を送る
玉名平野土地改良区幹線水路

水産業

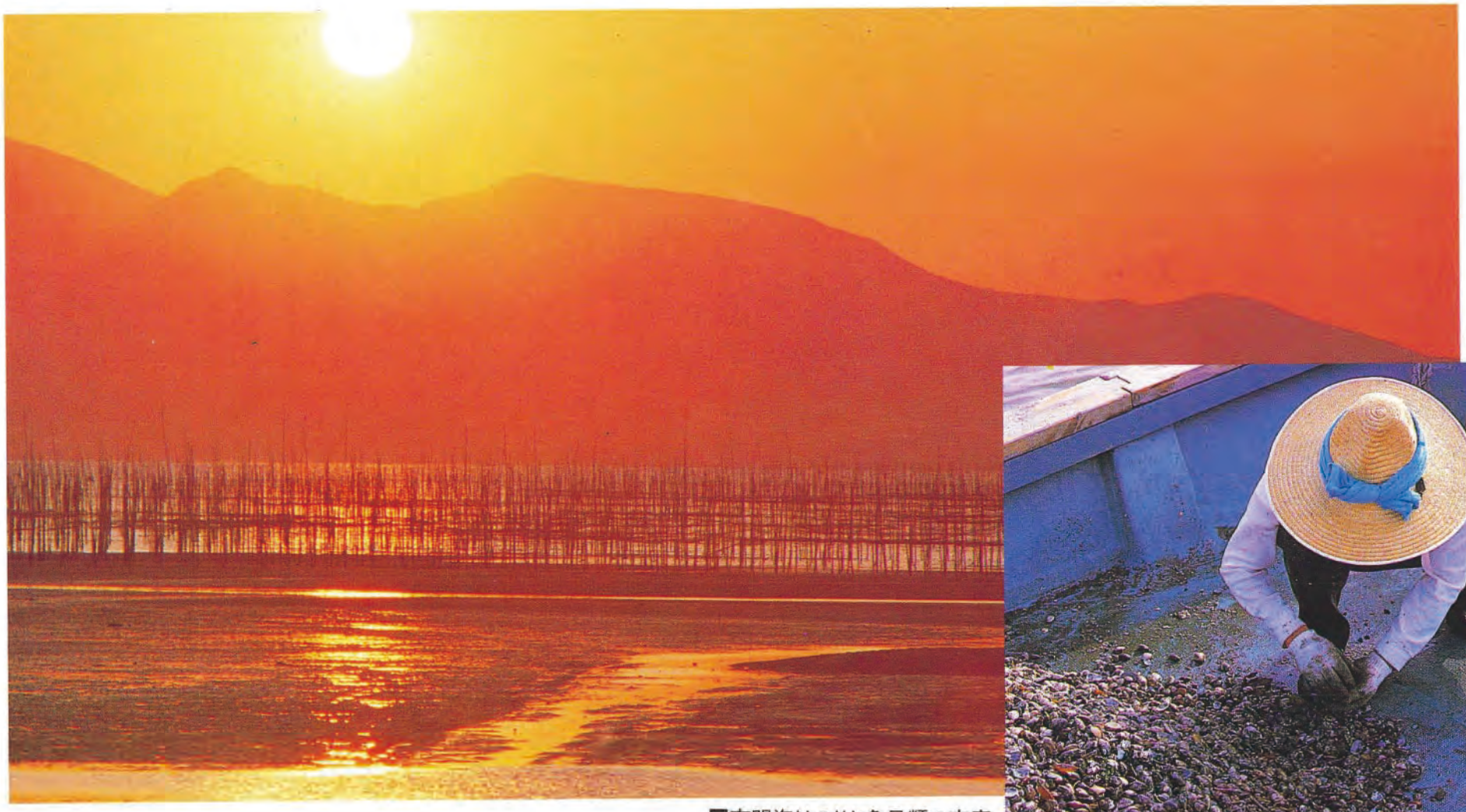
玉名市の水産業は、菊池川河口に発達した干潟でのり養殖業とアサリ採貝を主にして発展して来ましたが、漁港の改良、沿岸漁業構造改善事業、稚貝蒔付事業などにより密度の高いのり養殖や採貝が行われています。

	生産量	生産額
ノ　リ	90,599千枚	968,730千円
魚貝類	5,590t	1,507,836千円

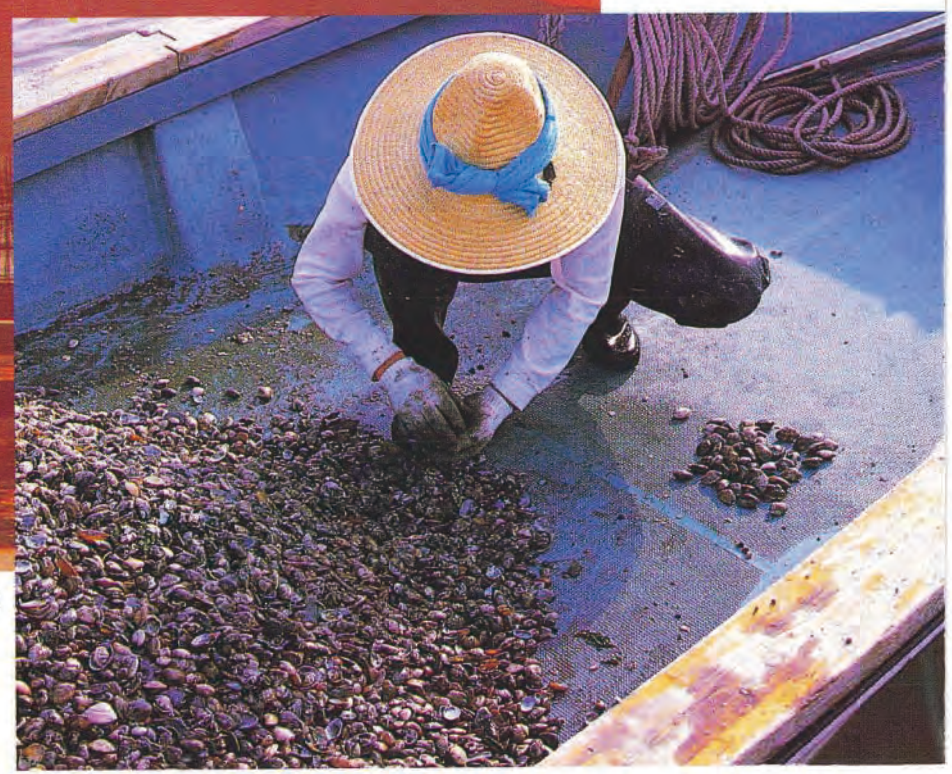
(昭和58年度)

■玉名漁港





■有明海はのりと魚貝類の宝庫



商業

昭和57年の商業統計調査によれば市内には1,200の商店があり、年間売上げは7,312,158万円となっています。

近年、消費者志向は多様化しており、これに対応するため経営の近代化、特色ある商店づくりに努め、消費生活の安定をはかっています。

従業員　30人以上　11店
売り上げ　1億円以上の商店　108店

卸売店110店　売り上げ3,914,027万円
小売店878店　売り上げ3,199,762万円
飲食店212店　売り上げ198,369万円



■中町商店街


■スーパー内でのショッピング



■駅通り商店街



■ゴム製品工場

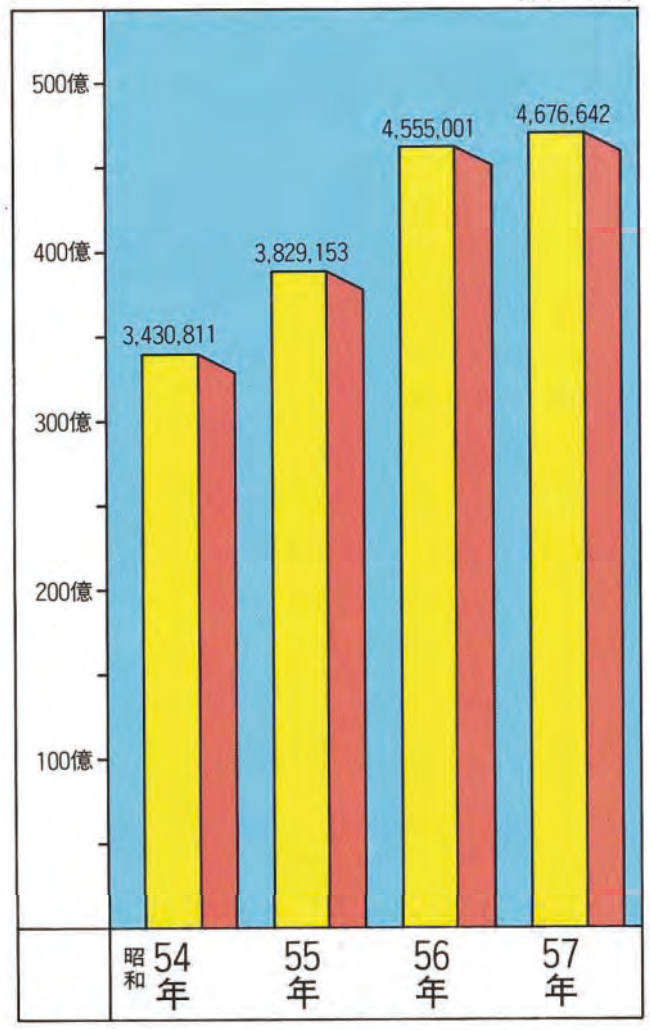


■縫製工場

工業

本市の工業は、昭和57年工業統計調査によると、従業員４人以上の事業所は89カ所、出荷額4,676,642万円です。従業員30人以上の事業所は29カ所となっています。この中には、ブリヂストン熊本工場など15の進出企業が含まれますが、地域の集落や自然と調和のとれた企業活動が行われています。

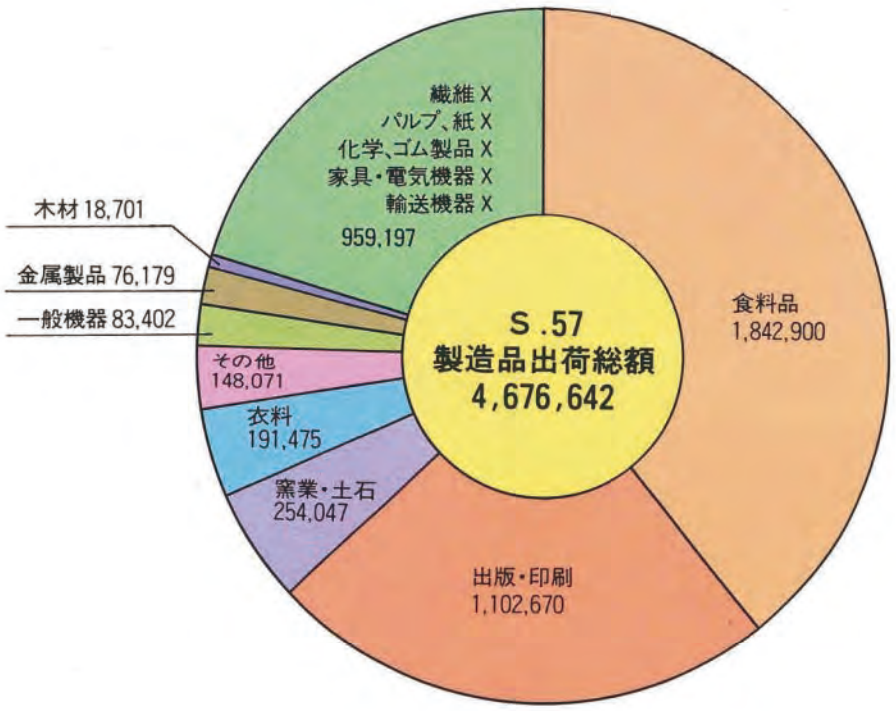
年度別工業出荷額





■白磁工場

工業出荷額（単位：万円）





■味付のり工場

環境　快適な生活環境

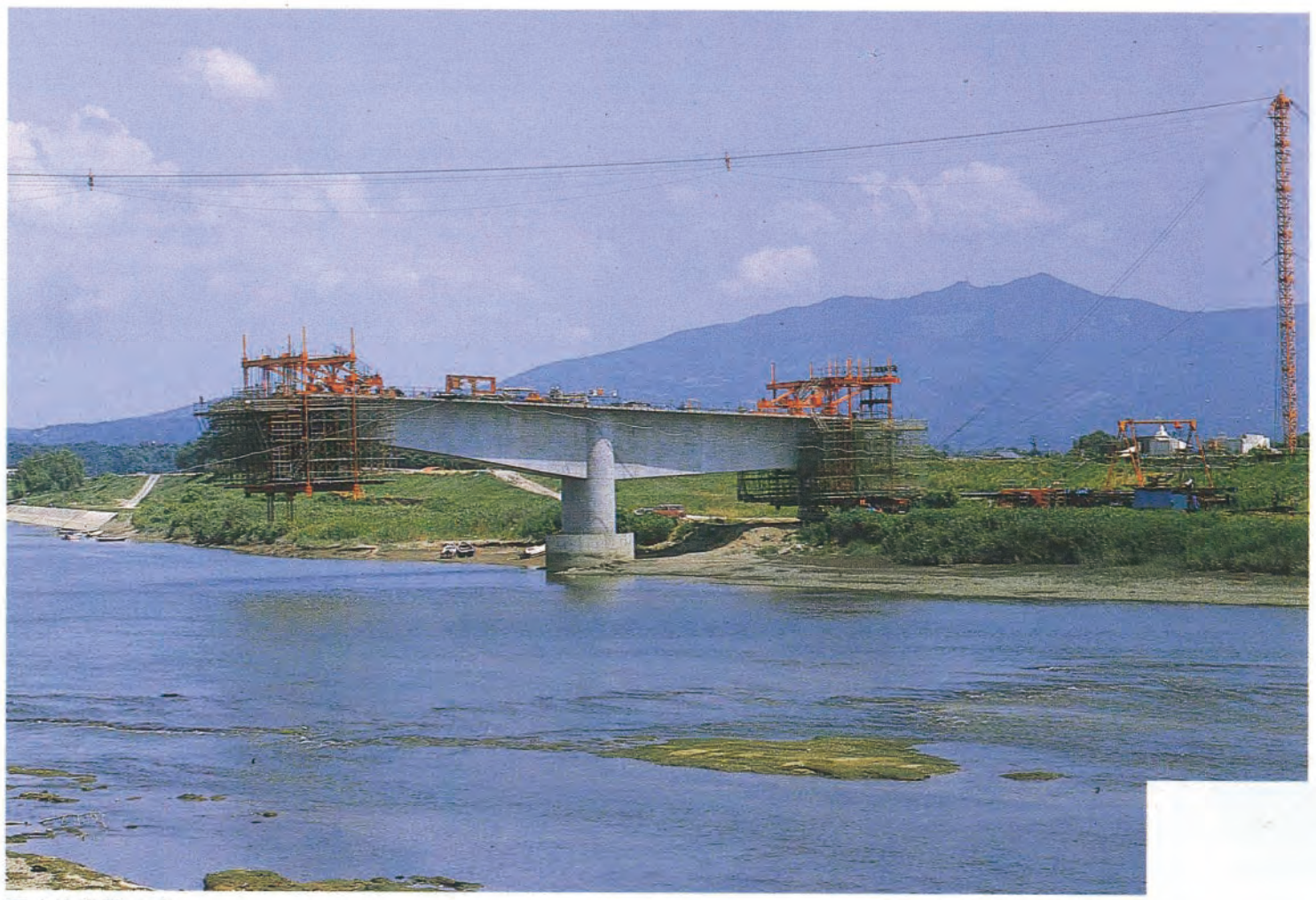


市民が潤いのある健康で文化的な生活を営むため、道路、住宅、都市計画、上・下水道、清掃施設などの整備を進め、豊かな自然と調和のとれた住みよい都市づくりに努めています。

交通・道路

本市の道路は、国道208号を中心に主要地方道、県道、市道が機能的に整備されています。

市道は総延長323,837kmで内舗装済みは84.5%となっています。



■小島架橋工事

■ループ橋





■玉名市の玄関　国鉄玉名駅



■道路の改良工事

住宅

公営住宅は、木造、非木造、中層住宅948戸からなっています。

糠峯団地は、市街地北部にあり、市営住宅268戸、土地分譲による個人住宅146戸と市内最大の住宅団地となっています。



■市営糠峯団地



■市営住宅と個人住宅



■市営住宅建設工事

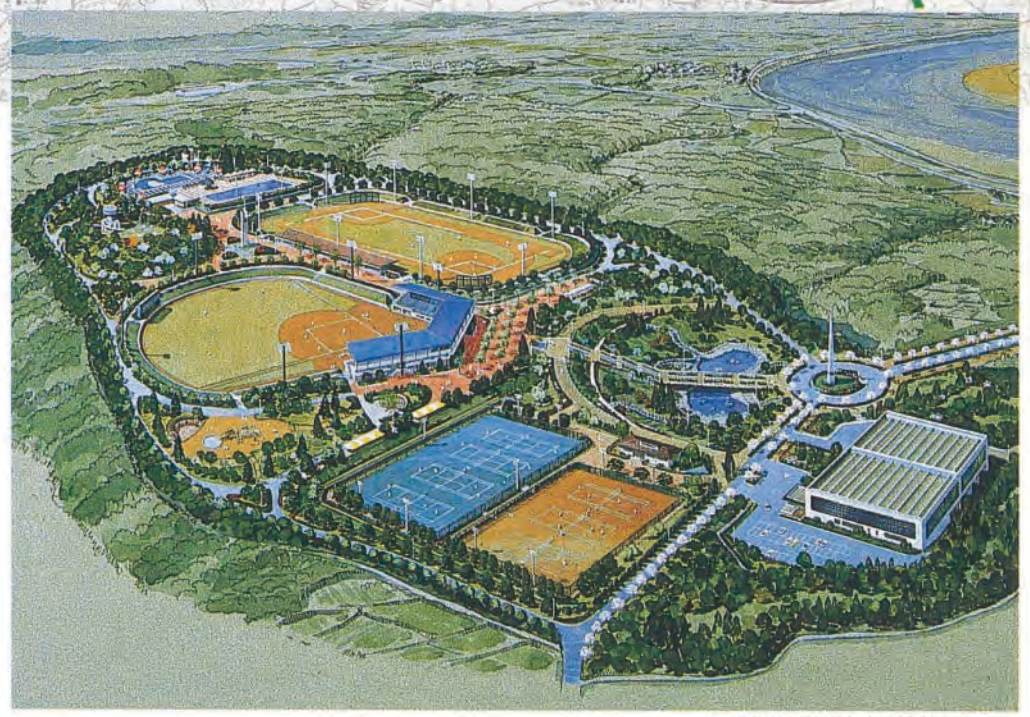
都市計画・用途地域

街路事業は玉名駅を中心に整備が進んでおり、蛇ヶ谷公園や児童公園の整備が進み、玉名駅南部では区画整理事業が進められています。

色別	用途地域
	第1種住居専用地域
	第2種住居専用地域
	住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域



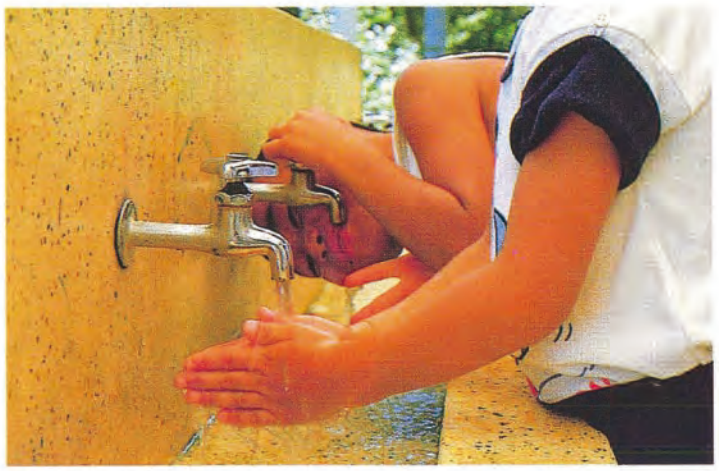
■整備された松木地区



■桃田運動公園完成図

上水道

豊富な地下水を利用した上水道は、東部、西部の市街地を中心に普及されており、普及率は64.1%です。



■水を大切に



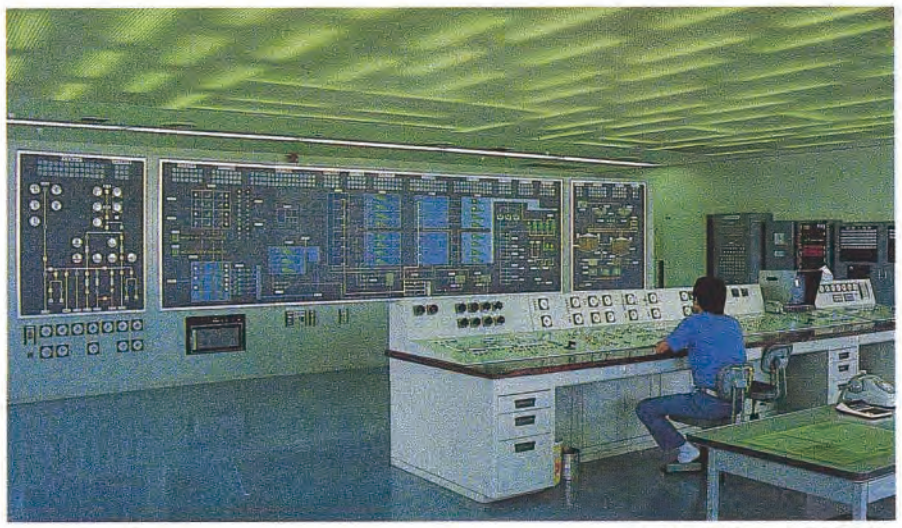
■蛇ヶ谷公園内の配水タンク



■浄化センター

下水道

昭和56年４月、一部供用開始した下水道は、処理戸数2,640戸、普及率62%となっています。

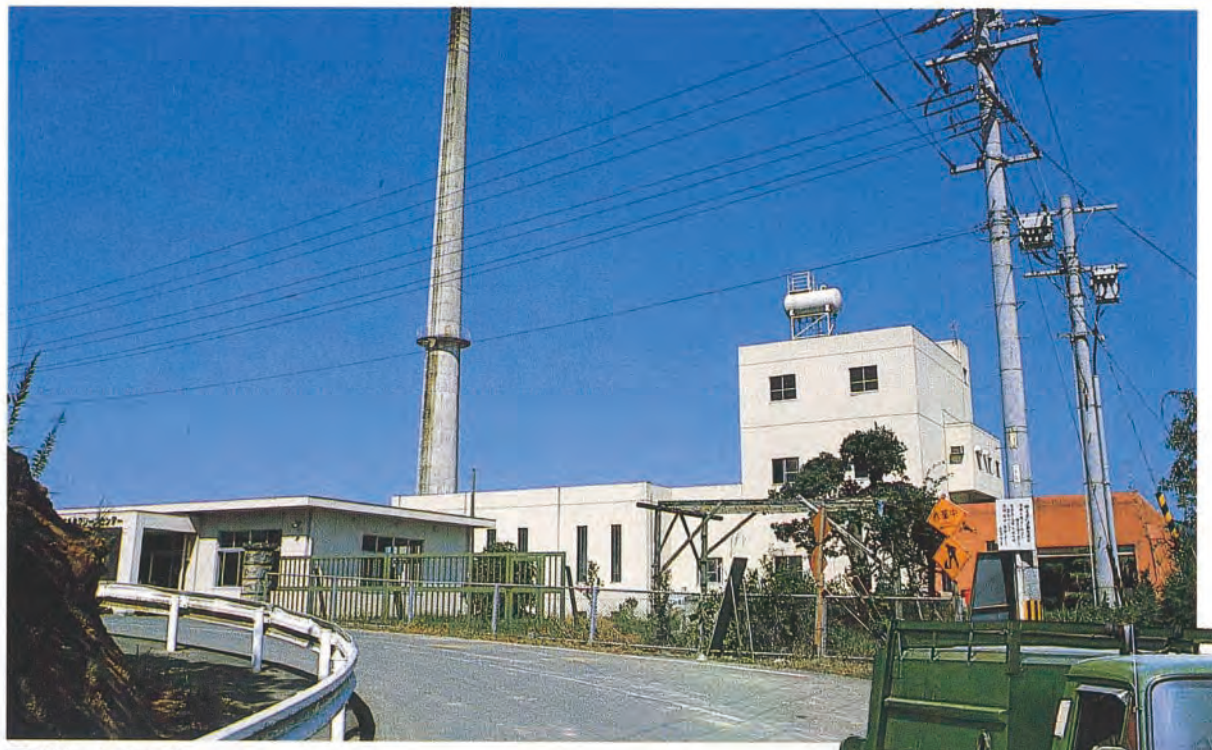


■処理場中央監視室

清掃・公害

昭和52年に完成したクリーンセンターは、昭和58年に電気集塵機を設置し公害防止に努めています。現在1日平均22tが収集処理されています。

又、し尿は1日48kℓが処理されています。



■クリーンセンター



■繁根木川をきれいに



■電気集塵機による公害防止



■し尿処理場



■国道208号での騒音・振動測定

福祉　心のふれあう豊かな福祉

本市の人口のうち、65歳以上の方は13.7%となり、高令化社会を迎えようとしています。

このようななかで、市民１人ひとりが安心して生活できるよう、社会的、経済的、身体的に恵まれない人々に暖かい心の通う福祉行政を行っています。

■身体障害者療護施設たまきな荘



■身体障害者憩いの家

身障者福祉

■療護施設

身体障害者療護施設たまきな荘（定員110名）では、身体に障害を持つ方々が十分な療護のもと楽しい生活を送っています。

■身体障害者憩いの家

昭和45年に開設した老人憩の家は、福祉センターの開館とともに、身体障害者憩いの家として利用されています。

保育所

本市には、市立９カ所（定員780名）私立４カ所（定員270名）の保育所があり、働く家庭や保育に欠ける家庭の生活安定に役立っており、園内では、幼児期の情緒を育てる保育が行われています。



■元気にかけっこ



■キャンプファイヤーをたのしむ園児たち



■かわいい演奏者たち



■なかよし子ども音楽会

福祉センター

昭和49年に福祉センター、老人福祉センターとして開館、１日平均167名の利用者があり、民踊教室等も開かれ、老人の憩いの場、社交場として利用されています。

■ホームヘルパー

昭和43年に発足したホームヘルパーは、現在６名のヘルパーが、単身のお年寄りや寝たきりのお年寄りのいる世帯を訪問し、話し相手となり、洗濯、食事の手伝等のお世話をし、感謝されています。



■健康体操で今日も元気に



■おどりで楽しく





■展望浴場



■独り暮しの老人とヘルパー



■ホームヘルパーの出発



■福祉センターと老人ホーム



■特別養護老人ホームの明るいベッドルーム



■特別養護老人ホーム内食堂

■定期健診





■折紙細工



■書道教室

老人ホーム

本市の人口約46,000人の内13.7%が65歳以上の老人であり、この内介護を要する寝たきり老人は114名となっており、静光園老人ホーム（定員50名）、特別養護老人ホーム岱山苑（定員80名）では、お年寄りの人格を尊重しながら楽しい生活が続けられています。